



発行日 2017年3月12日 **47号**  
 発行 相原まちづくり協議会  
 責任者 理事長 土田 恭義  
 所在地 町田市相原町 597-56  
 電話 042 (774) 2982

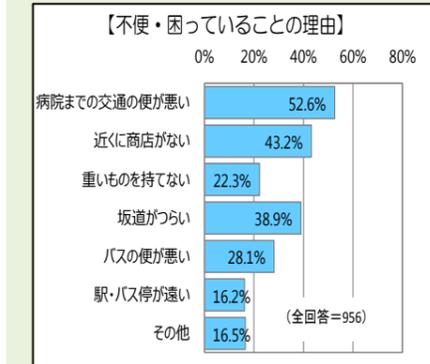
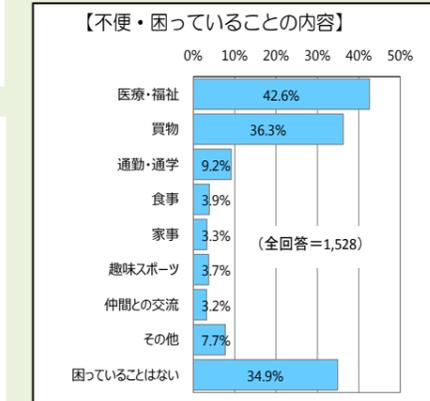
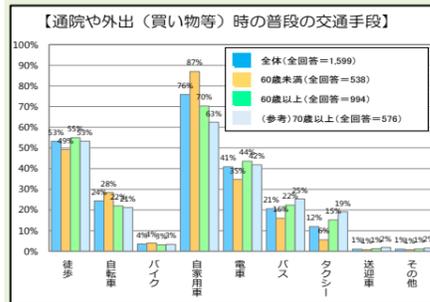
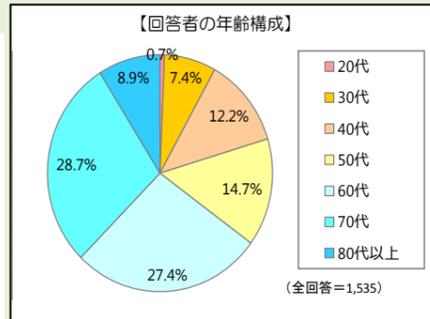
相原まちづくり協議会

検索

## 地域に適した交通システムのアンケート調査結果報告

昨年7月、当協議会とあいほら住民福祉協議会が実施したアンケート調査にご協力頂きありがとうございました。町田市が指定する相原の交通空白地区、8町会・自治会を対象に行った、アンケートの分析結果が町田市から発表されましたので、その概要を以下ご報告致します。

関心度	●60代以上の方の関心が非常に高い
不便・困っていること →その理由	●医療・福祉、買い物の割合が高い ●病院までの交通の便が悪い ●商店が無い ●坂道がづらい
外出時の交通手段	●自家用車が最も多い ●自家用車と答えた方の8割近くが自分で運転している ●一方で徒歩が約5割、電車が約4割、バスが約2割ある ※複数回答 ●タクシー利用者は近距離の利用が多い
バス利用者	●坂下・元橋(北側)地域では、バス利用が多い特徴がある
主に出かける時間帯	●10時頃がピークである ●8～16時は、「出かける」という回答が1割以上ある
主な行き先	●「スーパー、ドラッグストア」が最も多い ●「病院」「鉄道駅」「百貨店・ショッピングセンター」も一定数ある
鉄道駅	●橋本駅が最も多い
運行形態	●事前に手間のいらぬ定時定路線が必要だとする回答が多い



### (1) 交通システム運行目的の方向性

- ①坂道が急な地域に住む高齢者の日中外出支援
- ②最寄りの交通結節点(相原駅やバス停)までの移動利便性向上

### (2) 交通システム内容の方向性

- ①買物、通院に不便を感じる人への対応として、主に相原駅周辺に存在する医療施設、商業施設を経由する経路が考えられます。
- ②百貨店・ショッピングセンターや橋本駅等に向かうニーズが高いため、最寄りのバス停や相原駅までのアクセスを確保することで、町田や橋本方面への移動利便性の向上を図ることが出来ると考えられます。
- ③ニーズの高い時間帯を中心として、昼間(8～17時頃)を中心とした運行が考えられます。
- ④迂回を感じないよう、各地域と駅を直接結ぶルートが順番に運行することが考えられます。

## 相原駅西口広場完成記念式典 平成28年3月27日(日) 10:00より

相原駅西口広場及び接続する都市計画道路3-4-47号線(相原駅前通り)と3-4-49号線(相原南北通り)の完成に伴い、完成記念式典が執り行われる事になりました。これらの計画は平成5年に町田市が計画決定して推進して来ましたが、本年3月に完成の運びとなり、相原駅西口広場にて開催します。地域住民の皆様、駅利用の皆様で新しいスタートを見守って頂きたいと思っております。



### ●●●手形陶板の施工が完了しました●●●

相原まちづくり協議会では平成20年のJR横浜線・相原駅開業100周年記念イベントにおいて地域のお子様を対象に手形陶板作りを行い310枚の陶板を作成しました。町田市建設部道路整備課のご配慮を得て、すでに西口広場に手作り作業で取り付けられています。当時を思い出し、懐かしい手形をご覧ください。式典にあわせてお披露目いたします。施工にあたりご寄附ご協力を頂いた皆様に御礼申し上げます。



### 相原のハッピーストアがNHKのドラマの舞台になり全国放送されます



諏訪神社の前にあるハッピーストアさんが、4月4日PM6:45から毎週月曜日にEテレで放送される、青少年向け人気番組『念力家族』に、ハッピーストアの中だけとって「ピース」と言う店名で舞台となります。現在も放送されている連続ドラマの第2シーズンとして、4か月以上放送される予定です。今後も撮影の予定が入ってとのことでした。買い物ついでに声をかけて下さい。

### 地域の方のご参加を頂き充実した盛りだくさんのまちづくり研修旅行ができました

相原まちづくり協議会では、2回の日帰り研修と3年に1度の一泊の研修旅行を行っています。参加を希望される方は各町会、自治会のまちづくりの理事または、ホームページの『ご意見等』からご連絡下さい。♪旅費はすべて自腹で～す♪



## 第18回まちづくり講演会『安全・安心のまちづくり』

平成27年11月8日堺市民センター2F大ホールで行われた講演会の内容を抜粋いたしました。今年度は“安全・安心のまちづくり”をメインテーマに、首都圏直下型地震や自然災害、交通災害、防犯対策、高齢者の孤独死や救急搬送の問題等、様々な観点から相原町が直面する安全・安心に関わる諸課題について5名の講師による講演がありました。

### 自然災害に関わる防災行政の取組み 町田市市民部防災安全担当部長 福田 均



町田市の地域防災計画は、自然災害や大規模事故が対象です。今後高い確率で発生するとされている首都直下地震について、想定震度6強は、立ってられない位の揺れで、火災や倒壊等で建物の約7,000棟が被害を受け、避難者数は1日後に92,000人を超えます。市内の3分の1で断水が想定されます。飲料水は市内15カ所に設置します。協力井戸もありますが、飲み水として使えるのはごくわずかです。各家庭の備蓄の目安として、一人当たり3リッターを1日分として3日分を最低用意してください。相原は連携拠点病院から外れています。医療事拠点は、相原小学校が相原の医療拠点になります。相原小学校から2キロ以上離れた場所では近くの大病院に行く方が近い良い場合もあります。相原小学校では傷病者を緊急度に応じて分類し移送先を決めます。情報伝達については、ホームページ、防災無線、メールサービス、防災無線が聞き取りにくい場合は、無料のフリーダイヤルでも聴けます。正確な情報をもとに避難行動をして下さい。町田駅では12,000人が帰宅困難者になり帰宅困難者については図書館や公共施設以外に民間のホテルとも利用協定を結んでいます。阪神大震災で助けられた人の割合は7割が身近な人に助けられ、自主防災等が2割、消防や警察等は1割です。自助 共助で9割を占めています。風水害対策 避難所は東京家政学院大学 JA農協堺支店 法政大学が避難施設になります。雨の降り始めから300ミリを超える雨が降ると土砂崩れが発生する過去の事例があります。

### 防犯対策・交通安全対策への取組み 南大沢警察署生活安全課防犯係 担当係長 小杉 貞司



警視庁は、10数年8つの犯罪を指定重点犯罪にとり組みんでいます。特殊詐欺、ひったくり、侵入窃盗、強盗、性犯罪、子供を対象とした犯罪、自動車窃盗、車上狙いです。南大沢警察署は平成21年3月にスタートしました。犯罪件数は平成22年が327件で26年は161件で半減しています。犯罪の中で今までの手口が変わってきたものが侵入盗で、今までは鍵をしてない家が狙われましたが、最近はガラスを割っての侵入盗が増えています。対策として防犯フィルムや上下に補助錠を付けるなどして防いでください。昨年の特種詐欺の被害は80億とされています。管内では、昨年29件、被害額は約1億円になります。被害に遭わないために実行してもらいたいのは、確認の電話をしましょう。留守番電話にする。合い言葉を決める。決めてなくても有効です。振り込め詐欺以外にも儲け話には乗らない。振り込む前にもう一度確認の電話をしましょう。注意喚起シールを電話の近くに張りましょう。被害に合わないことは街全体を守るためにも重要です。南大沢警察署が発行している『防犯チェックポイント』『守りたい通信』を生活安全課から新聞などで配布しています。目を通して下さい。

### 南大沢警察署交通課交通総務係 担当係長 郷田 恵司



警視庁管内現在死亡者数は、137名でその内、自転車26名 歩行者64名です。現在、南大沢署管内では424件の人身事故が発生しています。物件事故は人身事故の10倍あります。雨降りや夕方などは特に危険です。交差点や車道の横断の時は運転者の目を見て安全を確認してください。小学生の自転車の事故でも損害賠償が発生します。保険に入ることも大切です。

6月から自転車の講習制度が始まり、14歳以上が対象です。自転車で違反をすると切符を切られます。事故や違反を繰り返すと、講習を受けなければなりません。自転車事故が減らないために作られた制度です。高齢者の事故防止に目立つ明るい服装や、靴の反射材がありますので利用してください。

### 災害出動・救急搬送の現状 町田消防署西町田出張所 所長 黒木 宗明



災害と救急の現場について、管内では6件の火災がありました。実際の火災例ですが、蚊取り線香による火災 タバコによる火災 車両火災など少しの不注意や不十分の対応が原因でした。町田市全体では年間60件ほどで推移しています。

救急車の出動件数は、町田消防署圏内で年間約20,000件です。町田市内には救急車が7台あります。1日平均8.8件出動しています。1回の出動で引き継ぎ等入ると約2時間かかります。搬送する方の半分以上が軽症の方です。町田市では65%と多くなっています。救急車の到着まで現在は、平均で7分ちょっとかかります。救急車の適正利用のために消防庁では、救急車を呼ぶか呼ばないか迷うような場合は、インターネットでも利用できるフローチャートや救急相談センターがあります。#(シャープ)7119で電話相談できます。ドクターや看護師、救命士で対応しています。処置方法や必要に応じ救急車の手配をしています。

AEDの使用が認められ11年が経過しました。救命処置をする一般の方のバイスタンダーといいます。相原でも平成26年4月と平成27年3月にAED使用し助かった方がおられ効果は絶大なものがあります。東京消防庁は応急手当の奨励制度があります。AEDの使い方など救命講習を各町会など団体に申し込むことができます。

最近は救急車を呼ぶと、応急救護の資格を持っている隊員がポンプ車で最初に到着することがあります。消防隊員と連携活動しなければならない状況です。救急車の適正利用お願いをいたします。

### 高齢者の安全・安心に向けた取組み 法政大学名誉教授 福屋 靖子



第6期町田市介護保険事業計画基本理念に基づき、町田・安心してらせるまちづくり推進協議会が発足しました。国策の地域包括ケアシステムづくりに向けた課題で、在宅医療と介護の連携を本格化するために、関係する職種が専門性を活かし、きめ細かな医療サービスを推進、提供することを目的としています。相原の高齢化率(65歳以上)は、27%の超高齢化社会です。9割が通院し、3人に一人が認知症か疑わしい人です。町田市の2割は、高齢独居と高齢夫婦世帯です。8割は介護保険サービスを受けていない元気な高齢者です。地域包括ケアシステムとは、新しいまちづくりです。重度な介護状態になっても住み慣れた地域で、自分らしい生活を最後まで続け

られるようにするシステムで、地域の特性に応じ、作り上げ行くことが求められています。行政ができることには限界があり、家族、親族、地域の人々助け合い、福祉法人等の支援のネットワーク構築に取り組むことが重要です。見守り支援ネットワークの整備につて、一部の町会、自治会では、見守り支援やお手伝いの会などがありますが、相原全体で取り組むことが大切です。地域の見守りと、あんしん相談センターや高齢者支援センターなどが連携し取り組み、高齢者が主役となり互助システムを作り医療サービスや福祉サービスを含め支援ネットワークの輪を広げて行くことが安心のまちづくりに必要ではないでしょうか。

### 講演を終えて 町田市都市づくり部地区まちづくり課 平本 一徳



町田市のまちづくり条例の基本理念には市民、事業者、行政と連携し住民主体のまちづくりに取り組むこととあります。本日の様な講演等を活用して情報や知識を共有した上で検討を進めて行くことができれば、より魅力と豊かさを感じられる街になると信じます。